

IAATO バードウォッチングガイドライン¹

南極研究科学委員会 (SCAR) 南極野生動物健康ワーキンググループは、2023-2024年と2024-2025年の南半球の夏季期間中、南極および亜南極地域に高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) が持ち込まれる危険性が高くなることを警告しています。世界的に、このウイルスによる野鳥およびアザラシの大量死が発生しています。野生生物に関わる方々やその近くで働く方々は、HPAIが持ち込まれることを想定し、可能な限り強力な防疫対策を維持する必要があります。何らかの大量死を発見した場合は、適切な手続きに従い、自社ツアーチームを通じてIAATOに報告してください。

陸上および氷上での鳥観察の一般的なルール

- 陸上、氷上、海上、空中を問わず、船舶、小型ボート²、その他の移動手段は、野生動物を動揺させない方法で使用してください。
- 上陸地点、生息地、個体に接近する、または離れるときは、ゆっくりと慎重に行ってください。
- 付近で野生動物を観察している他の人たちと協力してください。
- 声や音をできるだけ出さないでください。
- 急な動きをしないでください。
- 動揺させると、動物の行動が変わる恐れがあるため、鳥の行動に目に見える変化があったら、ゆっくりと離れてください。
- 常に動物に道を譲りましょう。
- 野生動物との交流を促したり、触ったり、触らせたりしないでください。このような行動は、ストレスまたはケガの原因となったり、病気感染のリスクを高めたり、動物からの攻撃的な反応を引き起こしたりする場合があります。
- 好奇心旺盛な個体 (特にペンギン) は、人に近づいてくることがあります。安全なことを確認したうえで、必要最小限の距離 (5m以上) を保ち、ゆっくりと後ずさりできる態勢をとってください。動く前に背後を確認してください。移動するペンギンの進路に立ち入らないでください。
- 衣服、履物、器具については、常に適切な防疫対策の手順に従ってください。
- 野生動物に決して餌を与えないでください。



海岸の鳥を見るとき

ボートで海岸に接近する際、上陸地点または群居地付近で小型ボートを操縦することで、ペンギンなどの鳥を動揺させることがあります。

- 上陸地点や群居地付近では、ゆっくりと走行して極力動揺させないようにします。声や音をできるだけ出さないでください。
- スタッフ/船員は、最善の上陸地点を決定する必要があります。鳥の群れからできるだけ離れた場所が理想的です。これは、鳥が海岸付近で換羽している時に特に重要になります。
- 鳥が入りしりたり、水浴びしたりする場所や、群居地近くの摂食している水域では、ボートの操縦は避けてください。
- 水中の鳥に注意してください。速度を落とすかコースを変えて衝突を避けてください。付近で野生動物を観察している他の人たちと協力してください。
- 小さなボートから崖や陸地にいる鳥を見るときは、ゆっくりとエリアに近づいて進み、離れます。

¹ IAATOの野生生物ウォッチングおよびその他のガイドラインは、国内政府の法律に取って代わるものではありません。一部の国では、IAATOのものを超える、より厳しいガイドラインや規制が存在し、IAATOのガイドラインよりも優先される場合があります。そして国の規制に違反すると罰金、懲役刑や極端な場合には、船舶の押収によって罰せられます。

² 本文書では、「小型のボート」をソディアック型の空気注入ボートとして定義し、複合または半複合のゴムボート、あるいは海岸での見学に使用される同様の上陸用小型船を指します。

海岸の鳥を見るとき推奨接近距離

- 鳥とは、少なくとも5m/15フィートの距離をとってください³。
これは、動物が人間の存在に動揺している兆候を示していない場合を前提としています。
- 推奨する接近距離を種とライフステージごとに要約したものが表1です。状況はその時々によって異なり、より長い距離を保つ必要がある場合もあります。
- よい写真を撮るために、野生動物または野生植物に干渉する行為を絶対にしないでください。フラッシュ撮影はいかなる状況でも行わないでください。
- 動物との間は、推奨距離を保ってください。
- 近づくために「自撮り棒」などの機器を使用しないでください。

表1 – 野生動物への推奨接近距離

種／ライフステージ	保持すべき最小距離 (m/フィート)	注意事項
巣作中の海鳥	5m/15フィート	別段の記述がない限り、これが最小距離です。島や崖を航行する小型ボートにも適用されます。
巣作り中のオオフルマカモメ	25m/75フィート	巣作り中は干渉に対して特に敏感になります。
巣作り中のアホウドリ	10m/30フィート	
威嚇しているアホウドリ	25m/75フィート	
換羽中のペンギン（個体および群れ）	5m/15フィート	ペンギンには古い羽毛から新しい羽毛に生え替わる、約4週間の換羽期があります。この期間はエサを獲るために海に入れないため、ストレスを与えないようにより一層の注意が必要です。

上陸したら

- ゆっくりと歩き、立ち止まって動物を見るよう見学者に勧めてください。声や音をできるだけ出さないでください。急な動きをしないでください。
- ペンギンが水域に出入りするための通り道や場所を塞がないようにしてください。付近で野生動物を観察している他の人たちと協力してください。
- 陸地が雪と氷に覆われているときは、「杭穴」を作らないようにしてください。ペンギンがはまり込んでしまう可能性があります。雪の中では同じ通り道を使用するようにしてください。穴が開いてしまった場合は、慎重に埋めるか、幅を広げたり、傾斜をつけたりして野生動物が穴から出やすくなるようにしてください。
- 常に動物に道を譲りましょう。親鳥が巣に戻るのを妨げると、トウゾクカモメやカモメによる卵や雛の捕食が増加する可能性があります。さらに親鳥は、巣に帰るまでに人間を避けたり最短ルートから逸れたりすることで、貴重なエネルギーを消耗します。
- 生息地の外側に留まり、安全な距離から観察してください。推奨接近距離を守ってください。鳥の行動に目に見える変化があったら、離れてください。
- 草むらでは鳥が巣作りをしている可能性があるため注意してください。地面の下にある海鳥の巣穴は非常に脆いため、上を歩かないでください。
- トウゾクカモメまたはアジサシが急降下を始めたら、子供あるいは巣を守っている可能性があります。カモメも敏感な傾向にあります。元来た方向へ、足跡をたどって後退してください。卵や幼鳥に気をつけてください。カモフラージュされていて、見えにくいところに隠れている場合があります。



³ 南極訪問者のための一般的ガイドライン南極条約協議国会議 決議4（2021年）、附属書1

水上の鳥を見るとき

- 船舶の航行中も、船舶の騒音や活動が野生動物に影響を与えないようにしてください。
- 鳥類やその他の野生動物の生息地域で運航する船舶は、屋外放送システムを使用する前に十分に考慮してください。
- どのような場合であっても、鳥を惹きつける「撒き餌」(魚や魚油の使用)を行わないでください。



水上での鳥の群れ

時には海鳥の群れを見ることができます。たとえば、たくさんの鳥が水面で摂食したり、水中に飛び込んだり、休憩したり、水浴びしたりする様子を見られることがあります。

- これらの鳥の多くは、子供の食べ物を探して何千キロもの距離を飛んできた可能性があります。
- 鳥たちの群れの端にとどまり、邪魔しないようにしてください。
- 船とヨットは少なくとも100m/300フィート離れた場所に留まってください。
- 小型ボートや手こぎボートは、少なくとも30メートル/90フィート離れている必要があります。

流氷上の鳥

鳥は、休憩する、または天敵を避けるために流氷の上にいることがよくあります。

- 船とヨットは、流氷上の鳥の群れから少なくとも100m/300フィート離れた場所に留まるようにしてください。
- 小型ボートや人力の水上バイクは、流氷上の鳥類から少なくとも5～15m離れている必要があります。これは、ペンギンが人間の存在に動揺している兆候(急に行動を変える、羽をパタパタさせるなど)を示していない場合を前提にしています。行動が急激に変化することのないように、ゆっくりと離れてください。

ペンギンの小型船への着水

まれに、ペンギンが小型ボートに乗り上げて、閉じ込められてしまうことがあります。

- 乗員は、ペンギンが自分で水中に戻って行くのを静かに待ってください。通常、手助けする必要はありません。しかし、救助が必要な場合は、1人がゆっくりと静かに動きながら、パドルのブレードやバックパックを利用してスロープを作ってください。そうすれば、ペンギンはしげに飛び移ることができます。小型ボートに同乗者がいる場合は、同乗者をできるだけ安全にペンギンから離れた場所に移動させて、ペンギンのストレスを軽減してください。